

# 弘法さんかわら版

発行編集部



徳川家康は名古屋城下を守るために、戦に備えて寺町を造りました。**駿河町**を起点とする**飯田(駿河)街**道と交差する西側の**法華寺町通**に沿って寺院を集めた場所が**東寺町**です。

寺は通りに面して山門を開いていますが、**西蓮寺**と**聖徳寺**は駿河街道に向いていました。法華寺町と禅寺町の間を流れる小川は、排水路とともに、寺域を背割りで分ける境界線の役割を果たしていました。

東寺町は飯田街道、駿河街道、岡崎街道の入口に当たり、神君家康公の生誕地岡崎を守るために拠点として整備されました。

十一月になりました。寒くなつてきました。くれぐれもご自愛ください。一昨年から「尾張名古屋・歴史街お送りしていますが、今年は名古屋城と名古屋城下町をお送りしています。今月は**東寺町と南寺町と西寺町**です。

## ★宗派ごとに固まつた東寺町

東寺町周辺は上中級藩士の屋敷が立ち並ぶ地域であり、藩主別邸でもあります。川家菩提寺の**建中寺**にも近い場所です。

東寺町には**清洲越し**で約四十の寺院が移転。その後も寺院は増え、幕末期には七十ヶ寺を超えます。

東寺町の特色は宗派を固めて配置したことです。東寺町がほぼ整った頃には、法華寺町通に日蓮宗系十六ヶ寺が集中したことが最大の特徴です。因みに、南寺町には日蓮宗系寺院はありません。

東寺町の東側には曹洞宗十ヶ寺、西側には浄土宗四ヶ寺が並び、宗派ごとに整然と配置されています。町の間を流れる小川は、排水路とともに、寺域を背割りで分ける境界線の役割を果たしていました。

東寺町は飯田街道、駿河街道、岡崎街道の入口に当たり、神君家康公の生誕地岡崎を守るために拠点として整備されました。

南寺町の賑わいが最盛期を迎えるのは、七代藩主**宗春**の時代です。幕府では八代將軍吉宗が質素儉約を旨とする享保の改革を行っていましたが、宗春は真逆の治世を推し進め、芝居や芸事を奨励し、南寺町は賑わいました。つまり、大須の基礎を築いたのは宗春と言えます。

万松寺西隣には、**織田信雄**が信長の菩提を弔うために建立した**總見寺**、北側には**若宮八幡宮**と**政秀寺**、本町通を挟んだ西側には**松平忠吉**の**大光院**、大須水天宮と呼ばれた**清安寺**、御土御門天皇の勅命で創建された**富士浅間神社**、尾張名古屋の三名水井を擁する**清寿院**、そして**大須觀音**と**七寺**、これらが全部隣接し、しかもそれぞれが広い寺領、社領を有したことから、この一帯の壯觀さが想像できます。

中でも万松寺の境内の広さは圧巻でした。境内は約二万三千坪に及び、名古屋城下町における特別な位置づけが伺えます。

名古屋城下町を支えたのは街道と商人です。来月は**名古屋五口と名古屋商人**をお伝えします。乞ご期待。

寺派は城下には入れませんでした。戦国時代に一向一揆が多発し、家康も三河一向一揆で苦労したことが影響しています。二代藩主**光友**の時代になつて東西別院の建立が許されました。

江戸時代初期の記録を見ると、本町通の東側には万松寺を筆頭に曹洞宗十五ヶ寺、臨済宗六ヶ寺、淨土宗三ヶ寺、西側には淨土宗六ヶ寺、真言宗は真福寺を含む二ヶ寺が密集していました。

南寺町の賑わいが最盛期を迎えるのは、七代藩主**宗春**の時代です。幕府では八代將軍吉宗が質素儉約を旨とする享保の改革を行っていましたが、宗春は真逆の治世を推し進め、芝居や芸事を奨励し、南寺町は賑わいました。

万松寺西隣には、織田信雄が信長の菩提を弔うために建立した總見寺、北側には若宮八幡宮と政秀寺、本町通を挟んだ西側には松平忠吉の大光院、大須水天宮と呼ばれた清安寺、御土御門天皇の勅命で創建された富士浅間神社、尾張名古屋の三名水井を擁する清寿院、そして大須觀音と七寺、これらが全部隣接し、しかもそれぞれが広い寺領、社領を有したことから、この一帯の壯觀さが想像できます。

中でも万松寺の境内の広さは圧巻でした。境内は約二万三千坪に及び、名古屋城下町における特別な位置づけが伺えます。

名古屋城下町を支えたのは街道と商人です。来月は**名古屋五口と名古屋商人**をお伝えします。乞ご期待。

雲端、幅下橋、円頓寺、明道町辺りを抜けて**浅間町の辻**に至ります。堀川沿いの美濃街道とその周辺の道筋です。

美濃街道は浅間町の辻を西に折れて進みますが、その北側にあつた新道筋には、**海福寺**、**宝周寺**、**法藏寺**、**西願寺**、**正覺寺**などが並び、西寺町を経由で中山道から都に向かう旅人にとって、この辺りは定番の休息処です。

その先は庄内川に架かる**枇杷島橋**です。橋の近くの庄内川東岸には経由で中山道から都に向かう旅人との子供たちの遊び場であつた**枇杷島河原**があります。

名古屋城が築城される約七十年前、吉法師時代の信長は枇杷島河原でよく遊んでいたと伝わります。河原には少し南の中村郷の稚児たちも来ていました。その中に信長と三歳違ひの**日吉丸時代の秀吉**でしょ。一緒に遊んでいたのかもしれません。そんな地域に造られたのが西寺町です。

本町通を熱田まで下ると、熱田神宮の西側、南側にも社寺が密集していました。古代から熱田社、宮宿の発展とともに寺社が増え、法持寺、本遠寺、大法寺、白鳥御陵や八剣宮などがありました。尾張藩の**東浜御殿**、**西浜御殿**も造営され、社寺とともに戦時には軍事拠点となり得る町の構えでした。

## ★大須と呼ばれた南寺町

宮宿に続く熱田道の両側に設けられたのが**南寺町**です。南寺町の中心は大須から移転した**真福寺(大須觀音)**であるため、**大須**は南寺町の代名詞となりました。東別院、西別院も南寺町の域内であります。当初、淨土真宗の大谷派と本願

## ★西寺町と枇杷島河原

東寺町と南寺町と比べると、その存在が知られていないのが**西寺町**です。堀川沿いを北上すると、四家道、景

## ★名古屋五口と名古屋商人

名古屋城下町を支えたのは街道と商人です。来月は**名古屋五口と名古屋商人**をお伝えします。乞ご期待。